

第 28 回「整形・災害外科 優秀論文賞」のお知らせ

本誌編集委員会では、昨年一年間の本誌に掲載された投稿論文（論究・臨床・手術・経験・症例欄等掲載論文）を対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記の論文が小誌における 2023 年（整形・災害外科 第 66 巻）の優秀論文に決定いたしました。

**新鮮腰椎分離症における硬性装具装着 2 カ月後の CT 所見で
最終的な骨癒合を予測可能か**

三宅秀俊ほか（静岡みらいスポーツ・整形外科）
〔整・災外 66：205—210, 2023〕（2 号）

**大腿骨近位部骨折患者に対して整形外科医と麻酔科医が作成した
集学的管理プログラムを用いた受傷後 48 時間以内の早期手術**

深澤高広ほか（西脇市立西脇病院，整形外科）
〔整・災外 66：315—321, 2023〕（3 号）

肩関節運動における体幹筋の筋活動開始時間の解析

山根将弘ほか（北海道医療大学病院，リハビリテーション室）
〔整・災外 66：979—987, 2023〕（8 号）

**母指 CM 関節症の四次元コンピュータ断層撮影法（4D-CT）
による対立動作の検討**

飯山俊成ほか（北九州総合病院，整形外科）
〔整・災外 66：1615—1621, 2023〕（13 号）

選 者 評

本誌第 66 巻（2023 年）に掲載された投稿論文の中から、本誌編集主幹 5 名の投票により、4 編が優秀論文として選出されました。

三宅秀俊氏は新鮮腰椎分離症に対する硬性装具装着後 2 カ月時点の CT にて進行群と非進行群に群分けした結果、小学生、受診までの期間が短い症例や、初診時の病期が進行している症例、第 5 腰椎分離症例に多く、これらの要素が組み合わさって進行に関与する可能性を示されました。

深澤高広氏は大腿骨近位部骨折の治療に際して、欧米のような整形老年病医との共同による集学的管理プログラムが人手不足で導入できない病院でも、整形外科医と麻酔科医との共同による同プログラムを作成することで手術までの待機期間を短縮し、合併症の軽減および死亡率を低下しうることについて報告されました。

山根将弘氏は肩関節運動時における体幹深層筋と表層筋の筋活動開始時間（onset）を計測し、筋間の onset を比較したところ、体幹深層筋と表層筋との間に onset の有意差はなく、肩関節運動時の体幹運動では体幹深層筋と表層筋が同時期に協調して活動することを明らかにされました。

飯山俊成氏は 3D 画像での動態評価が可能である四次元コンピュータ断層撮影法を用いて母指 CM 関節症に対する関節動態の解析を行い、母指 CM 関節動態変化には大菱形骨関節掌側縁の骨棘が影響することを証明されました。

上記 4 編の論文とも新しい知見に富む興味深い内容であり、優秀論文に相応しいと考えます。受賞者の皆様おめでとうございます。

受賞のことば

この度は「第28回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。新鮮腰椎分離症に対する骨癒合を目的とした治療において、順調に骨癒合が獲得できる症例が多い一方で、骨癒合に長期間要す症例や、病期が進行する症例も存在します。その違いは何かを検討する必要があると思われました。新鮮腰椎分離症症例の治療には数カ月の運動休止を要するため、治療開始時に骨癒合する可能性と、硬性装具による保存療法的重要性を説明する必要があります。本研究結果がその説明の一助になり、臨床において患者様・保護者様が安心して治療を受けるための資料として参考にしていただければ幸いです。今回の受賞を糧に、今後も臨床に結びつくような研究をしていきたいと考えております。最後に本研究においてご指導いただきました静岡みらいスポーツ・整形外科の石川徹也先生、本誌編集委員会の先生方にこの場をお借りして心より深謝いたします。

三宅秀俊（静岡みらいスポーツ・整形外科〔現：コミュニティーホスピタル 甲賀病院〕）



この度は「第28回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出いただき、驚きとともに大変光栄に存じます。高齢者の多い地方の病院で多くの大腿骨近位部骨折症例に向き合うなかで、私は2013年頃に、手術遅延が様々な合併症に影響を及ぼしているのでは、との臨床的疑問をもちました。欧米における早期手術のガイドラインを片手に麻酔科の先生に相談に伺ったところ、自身では作成困難な細部にわたるアルゴリズムを作成いただき、その後、病院内外の多職種の協力に奔走し、改良を重ねつつ現在の受傷後早期手術のシステムに至りました。このシステムは大腿骨近位部骨折に限らず、今後さらに増加していくであろう高齢者外傷症例においても周術期管理などの参考になりうるものである、と考えております。今回このような栄誉な賞をいただいたことを励みに、地方の病院ではありますが、今後も臨床現場において感じた疑問に対して研究を行い、論文発表の機会をいただければと思っております。

深澤高広（西脇市立西脇病院、整形外科）



受賞のことば

この度は「第28回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。肩関節運動時の体幹深層筋すべての筋活動開始時間を同時に計測した報告はこれまでになく、体幹深層筋の肩関節運動方向による特性を明らかにするために本研究に取り組みました。本研究では体幹深層筋には侵襲のあるワイヤ電極を用いたため、有害事象が起こらないように細心の注意を払いながら計測を行うことに苦勞しました。肩関節の運動方向によって体幹深層筋の筋活動パターンが異なることが明らかとなり、本研究の知見を肩関節運動プログラム作成や臨床家の意思決定に少しでも活用していただければ幸甚です。本研究は健常者を対象としたものであり、今後は疾患をもつ方に対しての研究を進めてまいります。本研究にご協力いただいた北海道医療大学の同僚、研究指導を担当された先生方をはじめ、本誌編集委員会の先生方に心より感謝と御礼を申し上げます。

山根将弘（北海道医療大学病院、リハビリテーション室）



この度は「第28回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。当院では3D-CTに時間軸を加えた4D-CTを撮影し、3D画像の動態評価が可能であります。その技術を整形外科分野に利用できないかと考え、鞍関節で複雑な動きをする母指CM関節で検査を始めました。母指CM関節の4D-CTでの動態解析の報告はありますが、母指CM関節症の動態評価や臨床症状との関連の報告はありません。そこで母指CM関節症の動態評価を行い、臨床症状との関連がわかればと考えたのが論文を作成するきっかけです。症例数も少なく、まだ臨床症状との関連が明らかになったといえるものではありません。今後も症例数を重ね、整形外科分野に少しでも貢献できるよう研究に邁進していく所存です。最後に、本研究を行う上で論文作成のご指導をいただいた戸羽直樹先生をはじめ北九州総合病院整形外科の先生方、また画像作成にご協力いただいた放射線技師の方々にこの場をお借りして深謝いたします。

飯山俊成（北九州総合病院、整形外科）



優秀論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。

本誌編集委員会では今後も継続的に各年毎の掲載投稿論文を対象に「整形・災害外科 優秀論文賞」の選考を行ってまいります。読者皆様の活発な研究発表の場として、小誌を存分にご活用ください。

（整形・災害外科 編集室）